

グリーティング

パイプオルガンの演奏を聴く機会がありました。スタンドガラスから光が射しこみ、高い天井の教会に設置された重厚な大きなオルガンをイメージしていたのですが、実物を身近に見た途端、びっくりしてしまいました。人の背丈ほどの高さで、人力で風を送って音を出すという簡単な構造なのです。

右の写真をご覧ください。左の演奏者は小島弥寧子さん。スペインのオルガン音楽をライフワークとし、大学で教えたり演奏されたり、国内外で活躍されています。右の男性は横田宗隆さんで長くヨーロッパでオルガンの研究をされ、10年位前に帰国されて以来、日本で製作、修理に励まれています。

この写真のオルガンも横田さんの作品で、演奏前に組み立て、調律すべてご自分でされました。

横田さんがふいごを上下させて風を送り、小島さんが演奏、という手づくり感たっぷりの素晴らしいコンサートでした。私はパイプオルガンの音色が好きになりました。日本人作曲家の親しみやすい曲もあり、運転中に楽しんでいる今日この頃です。

S. K



音をお届けできないのは残念ですが静かなクリスマスソングならいい感じだと思います。

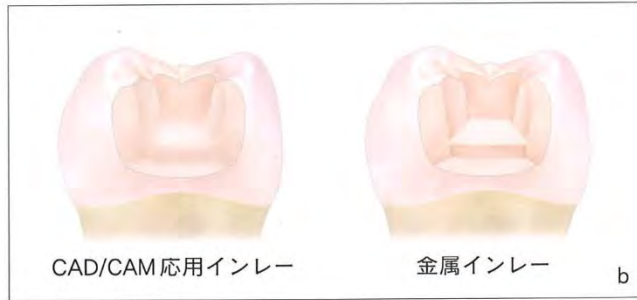
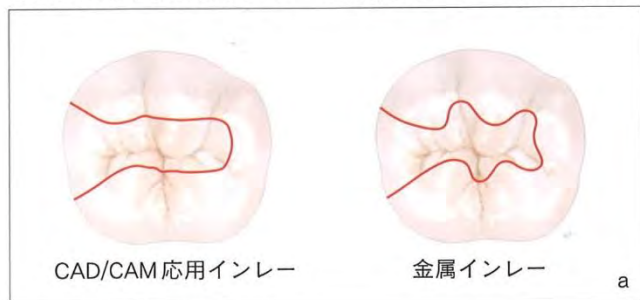
技工情報

◎CAD/CAMインレーとメタル(金属)インレーの窩洞外形

以前、メタル(金属)インレーと異なり、脆性材料の為、応力の集中を避ける必要があるため、曲線、丸みを帯びた形態ということの説明しました。

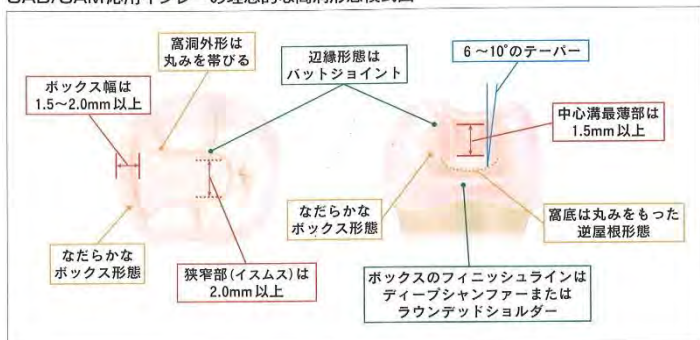
CAD/CAMインレーと従来のメタル(金属)インレーの基本的な窩洞外形

CAD/CAM応用インレーと金属インレーの窩洞外形



両者には咬合面 (a) と隣接面 (b) の形態に大きな差異があります。

CAD/CAM応用インレーの理想的な窩洞形態模式図



左図の様にメタル(金属)インレーの窩洞原則と相いれず、隣接面の形成は全く異なり、CAD/CAMインレーではメタル(金属)インレーで、付与したスライスカット及びフレアー形成は禁忌となります。

◎隣接面の形成に際して

- 1) 歯質削除量が多く、咬頭部の強度補強が必要な場合
- 2) 患側の頬舌側から隣接面部の歯冠形態・形態付与に有利な場合
- 3) メタル(金属)インレーの再製作で、既に隣接面にスライスカット・フレアー形成痕がある場合

以上の1)~3)の場合に咬頭を被覆するインレー形態を付与する場合があります

